

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.135) 2026/7/20

目次

1. 第 52 回大会報告
2. 第 53 回大会告知
3. 総会報告
4. 園田賞報告
5. 理事会報告
6. 定例研究会の告知 (関東)
7. 定例研究会の報告 (関西)
8. 看護・ケア研究部会の報告・告知
9. 渉外・国際交流活動の報告・告知
10. 会員の動向
11. 編集後記

1. 第 52 回大会報告

2026 年 6 月 13 日 (土) ～14 日 (日)、摂南大学寝屋川キャンパスにおいて、第 52 回日本保健医療社会学会大会を開催いたしました。本大会のテーマは、「ライフの多様性に開かれた保健医療社会学をめざして——ビッグデータ／研究支援／市民科学」でしたが、テーマに関連した企画も、一般の企画もつつがなく提供され、参加者総数は 144 名でした。理事会、研究活動委員会をはじめ、本大会の企画運営をサポートしてくださった諸関係機関の皆様感謝いたします。ありがとうございました。

本大会では、新機軸として、大会長講演と教育講演のオンデマンド配信を試みました (まだ閲覧可能です)。さらに、土曜日には、「市民公開 RTD」を、日曜日には、「大会開催校企画 RTD」をそれぞれ午後に配置し、プログラムの多様化と集客ターゲットの多様化に努めました。一時保育の利用者は 1 名、書籍販売は 1 社でした。現在、7 月末に開催予定の「第 12 回大会実行委員会」にむけて、決算案と総括文の作成途上ですが、関連して、大会ホームページの掲載内容についてお願いがあります。

大会ホームページ (<https://jshms-conference.jp/>) は慣例にしたがって、大会後 2 ヶ月程度で (第 52 回大会ホームページに関しては 8 月 14 日に) 閉鎖になります。従来は、そのまま諸情報が再公開されることはありませんでした。けれども、今年の大会ホームページに関しては、本年度総会で、「学会の諸活動のアーカイブ部分を含んだ新学会ホームページを設置する」予算案が承認されています。したがって、大会ホームページの主要部が 2026 年秋ごろには、学会の新ホームページに再度掲載されるようになります。そのため、以下のように「誤植訂正」をしておきたいと考えております。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

すなわち、もし現在閲覧可能となっている「第 52 回大会ホームページ」サイト内に、誤記・誤植、あるいは、改訂が望ましい箇所を発見なさった方は、その概要を大会長のメールアドレス

ス（榎田美雄、yoshio.kashida@setsunan.ac.jp）まで、直接、お教え頂けないでしょうか。なお、登壇なさった先生方の所属先の変更に関しては、ご連絡頂かなくて結構です。なぜなら、データの日付を 2026 年 1 月 15 日（『保健医療社会学論集・特別号』の校正日）として保存先に表記する予定だからです。この件、どうぞよろしくお願い致します。

（第 52 回大会長：榎田美雄 [摂南大学現代社会学部]）

2. 第 53 回大会告知

第 53 回大会は、ディシプリンの枠にとらわれない研究活動の発展を願い、大会テーマを「枠にとらわれず、保健医療社会学する——学際的対話から創造へ（仮）」として、立命館大学で開催します。開催時期は 2026 年 6 月の土・日を予定しておりますが、オープンキャンパス等の行事と重ならないように、日程は現在調整中です。また、会場については大阪いばらきキャンパス（OIC）を第一候補に、京都二条の朱雀キャンパスを候補としておりますが、調整中です。

大会の詳細、一般演題および RTD の募集等につきましては、2026 年 12 月までに確定し、学会ホームページ等でご案内する予定です。開催日程・会場につきましても、確定次第お知らせいたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（第 53 回大会長：美馬達哉 [立命館大学大学院先端総合学術研究科]）

3. 総会報告

第 52 回日本保健医療社会学会大会（大阪）の 2 日目 2026 年 6 月 14 日（日）に議長に本郷正武会員（桃山学院大学）を選出し、総会が行われました。総会議案書における各議案は以下の通りです。

第 1 号議案：2025 年度事業報告

第 2 号議案：2025 年度決算・監査報告

第 3 号議案：2026 年度事業計画

第 4 号議案：2026 年度予算

第 5 号議案：名誉会員（野口裕二会員）の推挙

第 1 号議案から第 5 号議案までは議案書に基づいて説明が行われ、承認されました。なお、第 5 号議案は規約第 3 条に基づき推挙された野口裕二氏が承認されました。

（清水理事：総務担当）

4. 園田賞報告

若手研究者の研究奨励を目的に 2006 年度に設置された日本保健医療社会学会奨励賞（2011 年度より「園田賞」）の 2025 年度受賞者は、園田賞選考委員会による審査結果の報告を踏まえ、理事会で審議の上、以下のとおり決定しました。

受賞者：田中裕史氏（名古屋大学大学院）

受賞作：（原著）「シンボル化していない外見的特徴と認知的乖離——手術痕に関するインタビュー過程の省察を通じて——」（『保健医療社会学論集』第 36 巻 1 号、

pp.54-65、2025 年)

2025 年度園田賞は、同年度に発行された本学会機関誌『保健医療社会学論集』（第 36 巻）に掲載された若手研究者による論文を対象にして選考されました。

（前田理事・園田賞選考担当）

5. 理事会報告

2026 年 6 月 13 日（土）に 2026 年度第 1 回理事会が開催されました。詳細は以下のとおり。

日時：2026 年 6 月 13 日（土）10:00～11:00

会場：摂南大学 寝屋川キャンパス 322 教室

出席者：美馬会長、清水理事、海老田理事、野島理事、樫田理事、前田理事、細野理事、松繁理事、細田理事、蘭監事、黒田監事、事務局 平野（記 国際文献社）

欠席者：天田理事

1. 第 52 回大会および総会についての確認（会長・総務理事）

清水理事より総会については総会議案書通りに進めることが確認された。議長については総会までに依頼する予定であることが伝えられた。

2. 編集委員会報告（編集理事）

海老田理事より論集の刊行状況、非会員査読者・執筆者への謝金について報告があった。

架空の参考文献を記載している投稿論文があり、リジェクトしたことが報告された。現時点で罰則等の規程がないため、どのように対応していくか編集委員会で検討することとした。今後、学会として AI についてのガイドライン作成を検討することとした。

3. 研究活動委員会報告（研活理事）

前田理事より資料の通り、4 月に関西定例研究会を開催したこと、11 月に関東定例研究会を開催する予定であることが伝えられた。

4. 看護・ケア部会報告（細野理事）

細野理事より 14 日の看護・ケア研究部会総会で役員が交代することが伝えられ、部会長が細野理事、副会長が海老田理事となることが報告された。

5. 渉外・国際交流活動の報告（渉外・国際交流理事）

細田理事より東アジア社会学会（EASA）が 11 月 27～29 日、国際社会学会（ISA）が 7 月に開催する予定で、それぞれセッションが募集されていることが伝えられ、会員へメール配信することとした。EASA のリサーチネットワークメンバーを募集しており、こちらも会員へメール配信して募ることとした。

6. 広報活動の報告（広報理事）

特になし

7. 評議員選任について（総務理事）

清水理事より新評議員として志水 洋人会員が提案され、承認された。

8. 入退会者の承認（総務理事）

清水理事より資料の通り、入会者 17 名の承認依頼があり、全員承認された。退会 65 名、資格停止退会 10 名の報告があった。

9. その他

清水理事よりホームページリニューアルについて 130 万円の見積りが提出され、2026 年度予算に組み込んだことが伝えられた。

大会ホームページのアーカイブ化において一般演題発表の発表者所属の変更について、今後は抄録集を正式な情報とし、抄録集には、いつ時点のデータであるかを記載することとした。

榎田第 52 回大会長より、発表予定者からハラスメント者として特定の人物を接近禁止してほしいとの依頼があったことが報告された。学会としては当事者間の事実関係を確認することは難しいことから接近禁止の制限を行うことができないが、できる限り安全を考慮する旨を回答したが、再度、接近禁止の依頼があり、大会校として対策班を設置し、対応することが伝えられた。

(清水理事：総務担当)

6. 定例研究会の告知 (関東)

2026 年度第 1 回関東定例研究会を下記の通り開催します。今回は、2026 年に青弓社から刊行された、菅森朝子氏の著書『乳がん女性のエスノグラフィー——ピア・サポート／友情／社会への継承』の合評会となります。評者として、ジェンダー論的な観点のもとで生殖医療や出生前検査などリプロダクティブ・ヘルス／ライツをめぐる研究を続けられてきた菅野摂子氏と、小児がん患者家族の語りの研究者としてがん／ピア・サポート／ナラティブなど対象書と重なる関心を持たれてきた鷹田佳典氏に、それぞれの立場からのコメントをお願いしております。乳がんを経験した女性たちへのインタビュー調査やフィールドワークにもとづき、乳がん同病者関係がピア・サポート／女性同士の友情／社会への継承から成り立っていることを明らかにした本書の持つ射程について、参加者との議論を共有する機会と考えております。ぜひ奮ってご参加ください。

日時：2026 年 11 月 22 日（日） 14:00～17:00

場所：立教大学池袋キャンパス8号館8201教室

*補助的な手段としてZoomによる配信を予定しています。

<https://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/>

書評対象書：菅森朝子（立教大学）『乳がん女性のエスノグラフィー ——ピア・サポート／友情／社会への継承』（青弓社、2026年）

評者：菅野摂子（東京科学大学）

評者：鷹田佳典（日本赤十字看護大学）

司会：前田泰樹（立教大学）・細野知子（日本赤十字看護大学）

*会員／非会員の区別なく、参加費無料で参加できます。

(前田理事：研究活動担当)

7. 定例研究会の報告（関西）

2026年度第1回（263回）（第1回関西）定例研究会を、医療社会学会主催・日本保健医療社会学会共催、看護・ケア研究部会共催の枠組で、下記の通り開催した。

日時：2026年4月11日（土）14:00～17:30

場所：クロスウェーブ梅田大研修室（JR大阪駅・阪急梅田駅から徒歩約10分）

テーマ：医療社会学者・黒田浩一郎さんを囲んで——講演とラウンドテーブル・ディスカッション

本企画は、中川輝彦（熊本大学）の開会挨拶ののち、第1部「退職記念講演」と第2部「ラウンドテーブル・ディスカッション」の2部構成で実施され、長瀬雅子（順天堂大学）の開会の挨拶までの3時間半にわたってあつい議論が交わされた。

2部構成部分に関しては、それぞれ、以下のメンバーが登壇し発言した。

第1部「退職記念講演」

司会：本郷正武（桃山学院大学）

演者：黒田浩一郎（龍谷大学）「私の医療社会学のこれまでとこれから」

第2部「ラウンドテーブル・ディスカッション」

司会：美馬達哉（立命館大学）

演者1（指定討論者として）：佐藤純一（無所属）

演者2（指定討論者として）：村岡潔（岡山商科大学・京都府立医科大学）

演者3（指定討論者として）：土屋貴志（大阪公立大学）

本企画は、本学会の会長経験者（2013～2015）でもある黒田浩一郎さんが龍谷大学を2026年3月31日に定年退職したことを記念して開催されたものである。第1部では、黒田さん本人が資料に基づいて、過去の研究歴／執筆歴／書籍編集歴と結び付けながら、現在の研究課題と未来の研究予定を語った。これに対し、第2部では、いずれも医療社会学会（美馬達哉会長）に所属する3演者が、それぞれの視点から、黒田医療社会学の論争性と時代即応性と先見性を語った。フロアからも、事実にかかわる問題から、理論にかかわる問題まで幅広い質問がなされ、最後まで活発な議論が交わされた。

退職記念行事としてみれば現役感いっぱいの、異色の内容ということになるのかも知れないが、黒田さんご本人からも、退職後は語の本来の意味で（すなわち、do not die but fade awayという意味で）「消え去る」というご意向が示されたので、つまり、力が残っている限りは研究を続ける、という意思表示がなされたので、そういう観点からは、とうぜんの内容だったといえるだろう。今後も本学会の研究の発展のためにご尽力頂けそうで、まことにありがたいことだ、と思われる研究会であった。

（樫田理事・松繁理事：研究活動担当）

8. 看護・ケア研究部会の報告・告知

1) 新役員体制について

今年度、看護・ケア研究部会は役員の交代となり、部会員による役員選挙の投票結果に基づき、部会長は細野知子（日本赤十字看護大学）、副部会長は海老田大五朗（新潟青陵大学）、庶務は三枝七都子（杏林大学）、会計は鷹田佳典（日本赤十字看護大学）となることが、第 52 回大会で開催された部会の総会で承認されました。

2) 新部会長より

今期、部会長を拝命しました細野です。前期の庶務から役員を続投しております。今期は部会長として、現在 80 名の会員からなる本部会の活性化を図りたいと思っています。専門は看護学（成人看護学・慢性期看護）で、医療や療養生活の記録と行為の連関を研究テーマにしています。日頃は学部生から博士後期課程の大学院生までの教育にかかわっておりますが、学際的な観点で学習や研究をする重要性を実感しています。本部会の活動が現代の保健医療に有効な教育・研究に結実することを願って、目の前の一つひとつの取り組みに臨んでまいります。この 4 名で力を合わせて進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3) 2026 年度研究例会の開催予定について

今年度は以下の通り、4 回の研究例会を開催します。

第 1 回：2026 年 8 月 8 日（土）14:00～17:00

第 2 回：2026 年 10 月 4 日（日）14:00～17:00

第 3 回：2026 年 12 月 20 日（日）14:00～17:00

公開企画 1 回 2027 年 2～3 月

【参加申込フォーム】

研究例会にご参加を希望される方はこちらのフォームからお申し込みください。

<https://forms.gle/3Wto4j9xgotVr5DeA>

4) 研究例会報告者の募集

定例研究会の報告者を募集しております。基本的に毎回 2 名の報告者を募集しております。

【報告者募集】

研究例会でのご報告をご希望される方は、下記のフォームからお申し込みをお願いいたします。皆様からのお申込みお待ちしております！

<https://forms.gle/Vc2EAqb6Bj7a5TRu9>

（細野理事：看護・ケア研究部会担当）

9. 渉外・国際交流活動の報告／告知

・2026 年 11 月 27－29 日に、東アジア社会学会(EASA: East Asia Sociological Association)が開催されます。今回は日本（慶応大学三田キャンパス）での開催で、現在 Call for Papers の

お知らせが来ています(応募期間: 2026 年 6 月 15 日から 9 月 15 日)。WEB サイトをご覧ください。
なり、是非ご参加ください。

<https://easa-sociology.com/2026japancongress/>

・2027 年 7 月 4-10 日に、国際社会学会(ISA: International Sociological Association)が開催
されます。今回は韓国(Gwangju)での開催で、現在 Call for Session お知らせが来ています。
締め切りは 2026 年 6 月 25 日です。WEB サイトをご覧ください、是非ご応募ください。

<https://www.isa-sociology.org/en/conferences/world-congress/gwangju-2027>

・2026 年 10 月 30 日、31 日、11 月 1 日に、アジア太平洋社会学会(APSA: Asia Pacific
Sociological Association)がバンコク(タイ)で開催されます。テーマは、"Planetary Health
in a Polycrisis Era: Sociological Pathways to Human Security, Healthy Living, and
Sustainable Governance"です。現在、演題募集のシステムを構築中で、わかり次第お知らせい
たします。

(細田理事: 国際・渉外担当)

10. 会員の動向

2025 年 6 月 14 日~2026 年 6 月 13 日までの申請者数は下記の通りです。

入会者数: 通常会員 30 名、共同発表会員(通常) 6 名、学生会員 20 名、共同発表会員(学生)
0 名

退会者数: 通常会員 40 名、共同発表会員(通常) 20 名、学生会員 0 名、共同発表会員(学生)
1 名、シニア会員 6 名

逝去: 名誉会員 1 名、通常会員 1 名

資格喪失: 通常会員 10 名

学生会員への変更数: 14 名

シニア会員への変更数: 9 名

常勤職にない会員の会費減額申請数: 15 名

(学会事務局)

11. 編集後記

ニューズレターNo.135 では、6 月に実施した第 52 回大会の開催報告に加え、来年 6 月の
第 53 回大会のお誘い、および 2026 年 4 月に開催された 2026 年度第 1 回定例研究会(関西)、
今後の研究例会の開催予告などについてお知らせいたしました。第 52 回大会は大阪での大変
充実した大会となりました。第 53 回大会も引き続き対面開催を予定しておりますので、来年
度のご予定に入れていただければ幸いです。

日本保健医療社会学会ニューズレターは、No.92 から PDF ファイルのメールマガジン形式
で配信しています。また学会ホームページ(<https://square.umin.ac.jp/medsocio/>)でも公開し
ています。

(天田理事: 広報担当)

発行：日本保健医療社会学会	編集：広報担当（天田城介）
学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター	
jshms-office@as.bunken.co.jp	TEL：03-6824-9375